

表-6.1.2(5) 浸透ゾーン（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の必要容量の検討結果

施設名		流域面積 (ha)	平均流出係数	平均透水係数 (cm/s)	計算値			短期・長期の比較検討	
					浸透面積 (m ²)	必要水深 (m)	必要容量 (m ³)	短期降雨強度 (m ³)	長期降雨強度 (m ³)
浸透ゾーンⅠ	B区域	12.1	0.92	1.4×10 ⁻²	※ 45,600	0.337	7,524	7,524	0
	C区域	33.8	0.74						
浸透ゾーンⅡ	D区域	29.2	0.60	3.6×10 ⁻³	20,900	1.112	23,245	23,245	997
浸透ゾーンⅢ	F区域	9.1	0.59	8.1×10 ⁻³	6,300	0.655	4,128	4,128	0

備考：ゾーンⅠのフラット部面積は、22,300m²。

表-6.1.2(6) 浸透ゾーン（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の容量

施設名	採用値		恒久的施設 (余裕高0.6m)	
	有効水深(m)	有効容量(m ³)	満杯時水深(m)	満杯容量 (m ³)
浸透ゾーンⅠ	0.400	8,900	1.000	22,300
浸透ゾーンⅡ	1.200	25,000	—	—
浸透ゾーンⅢ	0.700	4,400	1.300	8,100

備考：浸透ゾーンⅡは、地形の状況等により、場外への流出がないと認められるため、1/50必要水深のみ確保する。

イ) 浸透ゾーンの位置

(ア) 浸透ゾーンⅠ

浸透ゾーンⅠは、空港海側法尻に広く分布する、琉球石灰岩および沖積層、名蔵礫層面を利用してC区域からの雨水排水を浸透処理する。

琉球石灰岩分布ゾーン～名蔵礫層ゾーンまでは傾斜地形となっているため、貯水ポケットを確保することが困難である。

このことから、浸透面としてはゾーン全体を考慮するが、必要容量の確保は、沖積層ゾーンにフラット面を設けて確保することとする。

(イ) 浸透ゾーンⅢ

浸透ゾーンⅢは、浸透ゾーンⅠの北側であり、付替農道と空港本体に囲まれた部分で、F区域からの雨水排水を浸透処理する。浸透面は、沖積層とトムル層が分布する。